

# ロワールの赤ワイン最高の造り手と名高い、 「イヤニック・アミロ」氏が贈る 地元古来の白ワイン文化の復権に向けた傑作。

北フランス・ロワール地方におけるカベルネ・フラン TOP4 の造り手の一人。自分に厳しく、ワイン造りに関しても妥協を許さないイヤニック・アミロ氏。そんな彼のワインを求めて、遠方から買い求めにくる常連客もいますが、どのワインも生産量もわずかなため、年々手に入りにくくなっています。畑仕事に醸造に、彼のドメーヌを訪れた事があるならば、そのどこまでも丁寧な仕事振りに驚嘆するはずです。



IGP ヴァル・ド・ロワール・ブラン バタール・プリンセス  
IGP Val de Loire Bâtard-Princesse (750ml) 2021 年

ロワール地方を代表する白ブドウ品種を栽培するという夢がついに実現して誕生したワインです。ワイン名の「バタール」は“私生児”という意味です。このブルグイユという地でシュナン・ブランが私生児であること主張しています。

ほんの 50 年前までは、この地で有名なカベルネ・フランと一緒に、白ブドウであるシュナン・ブランも栽培されていたそうです。しかし AOC の認定によってこの地の赤ワインの人気が高まった為、いつしかシュナン・ブランは姿を消してしまいました。

元々このブルグイユの地で造られていた白ワインの復権へ挑戦したのが、このワインです。この地のバタール（私生児）であるシュナン・ブランを用いた事、そしてかの有名なバタール・モンラッシュへのリスペクトが名前の由来となっています。「プリンセス」はワインの魅力的な個性を表現して付けられました。

イヤニック・アミロ氏は「将来的に「ブルグイユ・ブラン」というアペラシオンが誕生することを願っています。」との思いを込めています。

8,140 円